



ブレのない情報＝科学的根拠に基づく情報

ガイドライン

引用文献

科学的根拠に基づく
肺癌
診療ガイドライン
2023年版
第1分冊
肺がん



CQ2 化学療法

CQ2-2 遠隔転移を有する肺癌に対して推奨される一次化学療法は何か？

推奨 遠隔転移を有する肺癌に対する一次化学療法としては、塩酸ゲムシタピンが推奨される(グレードA)。



がん情報さがしの10カ条(その1)

1. 情報は“力”。あなたの療養を左右することがあります。活用しましょう。いのち、生活の質、費用などに違いが生じることもあります。
2. あなたにとって、いま必要な情報は何か、考えてみましょう。解決したいことは？知りたいことは？悩みは？メモに書き出して。
3. あなたの情報を一番多く持つのは主治医。よく話してみましよう。質問とメモの準備をして。何度かに分けて相談するのもよいでしょう。
4. 別の医師の意見を聞く「セカンドオピニオン」を活用しましょう。他の治療法が選択肢となったり、今の治療に納得することも。
5. 医師以外の医療スタッフにも相談してみましよう。看護師、ソーシャルワーカー、薬剤師なども貴重な情報源です

国立がん研究センター がん対策情報センター



がん情報さがしの10カ条(その2)

6. がん拠点病院の相談支援センターなど、質問できる窓口を利用しましょう。がん病院、患者団体などに、あなたを助ける相談窓口があります。
7. インターネットを活用しましょう。わからないときは、家族や友人、相談支援センターに頼みましょう。
8. 手に入れた情報が本当に正しいかどうか、考えてみましょう。信頼できる情報源か、商品の売り込みでないか、チェックして。
9. 健康食品や補完代替医療は、利用する前によく考えましょう。がんへの効果が証明されたものは、ほぼ皆無。有害なものもあり要注意。
10. 得られた情報をもとに行動する前に、周囲の意見を聞きましょう。主治医は？家族は？患者仲間は？あなたの判断の助けになります。

国立がん研究センター がん対策情報センター



がんナビゲーターに求められる 情報収集能力



がんナビゲーターに必要な情報

- がん診療に関する一般的情報
- がん診療地域ネットワーク内での医療・福祉に関する情報
- がん患者・家族のがん関連情報への適切なアクセス方法



がんナビゲーターに必要な情報

- がん診療に関する一般的情報
⇒e-learningを中心と研修&EBM情報の収集
- がん診療地域ネットワーク内での医療・福祉に関する情報
⇒がん診療連携拠点病院を中心とした地域がん診療情報へのアクセス



正しい医療情報の入手と理解

- 情報源の位置付けを知る
- 情報の質を見極める
- 情報の内容を吟味・評価する
- 情報を主治医や家族と共有する



信頼できるがん情報サイト

- がん対策情報センター：
<http://gan.joho.ncc.go.jp/public/index.html>
- Minds 医療情報サービス
<http://minds.jcqh.or.jp/>
- NCI PDQ：
<http://www.cancer.gov/>
- がん情報サイト：
<http://cancerinfo.tri-kobe.org/>
- NCCN：
<http://www.nccn.org/>
- ASCO：
<http://www.asco.org/portal/site/ASCO>

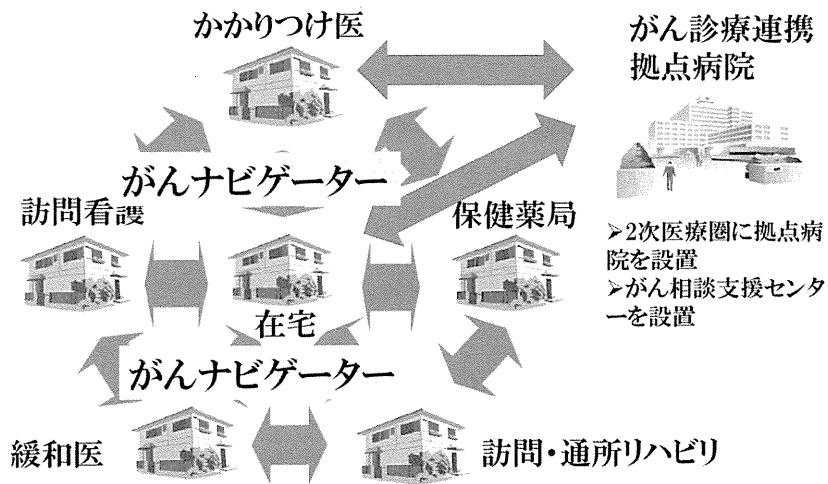


がん患者・家族のがん関連情報 への適切なアクセス方法

- ⇒主治医との相談の奨励
- ⇒がん相談支援センターの紹介
- ⇒セカンドオピニオンの説明



求められるがん診療連携



H26年12月7日(土)
がん医療ネットワークナビゲーター
教育研修セミナーin熊本

がん相談支援において必要な知識とスキル

(がん診療連携拠点病院)
熊本大学医学部附属病院
がん相談支援センター
稗田 君子

本日も話する内容

1. がん相談支援センターの紹介
2. がん相談支援の現状と課題
3. がんナビゲーターに必要な知識とスキル

がん相談支援センター設置の経緯

○2人に1人はがんに罹患、3人に1人はがんで亡くなる現状

○がん難民の存在

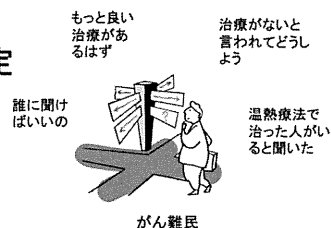
○H18年がん対策基本法が成立

○H19年がん対策推進基本計画の策定

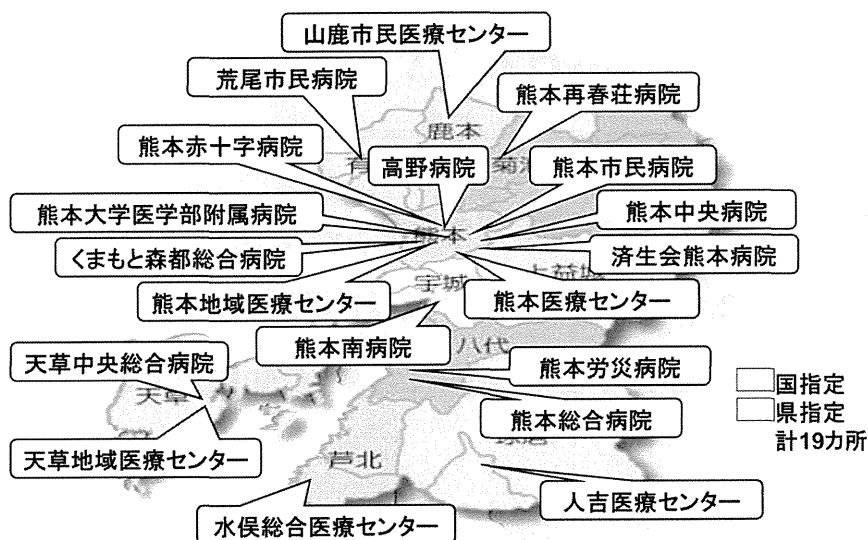
がん医療の均てん化に向けて、
がん診療連携拠点病院を設置

【指定要件その1】

がん相談支援センターを設置し、がん専門相談員を配置

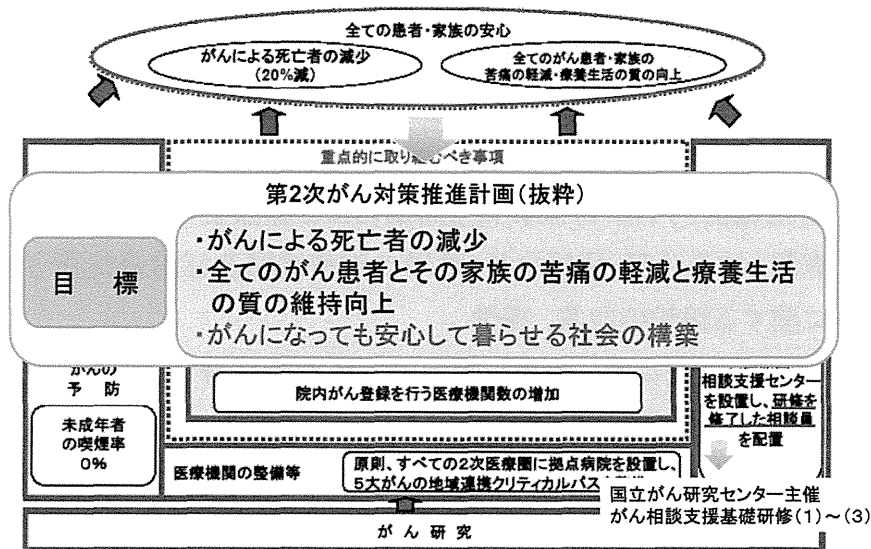


がん診療連携拠点病院:がん相談支援センター



がん専門相談員が配置されている

がん対策基本推進計画



がん相談支援センターの役割

- ☆病院内・外を問わず、患者・家族あるいは地域の方々
(医療・福祉機関、一般の方)からがん医療に関わる相談を
電話・面談にて受ける
- ☆その人らしい生活の構築と治療選択ができるように支援する

- ☆対応する職種: 医師、看護師
医療ソーシャルワーカー(主に)
栄養士、薬剤師など



がん専門相談員の業務

＜ア～シ(12項目)の具体的な業務が求められている＞

- ア がんの病態、標準的治療法等がん診療およびがんの予防・早期発見等に関する一般的な情報の提供
- イ 診療機能、入院・外来の待ち時間および診療従事者の専門とする分野・経歴など、地域の医療機関及び診療従事者に関する情報の収集、提供
- ウ セカンドオピニオンの提示が可能な医師の紹介
- エ がん患者の療養上の相談
- オ 就労に関する相談(産業保健等の分野との効果的な連携による提供が望ましい)

厚生労働省 新整備指針より

がん専門相談員の業務

- カ 地域の医療機関及び診療従事者等におけるがん医療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供
- キ アスベストによる肺がん中皮腫に関する医療相談
- ク HTLV-1関連疾患であるATLに関する医療相談
- ケ 医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期的開催等の患者活動に対する支援
- コ 相談支援センターの広報・周知活動
- サ 相談支援に携わるものに対する教育と支援サービス向上に向けた取組
- シ その他相談支援に関すること

厚生労働省 新整備指針より

がん診療地域連携クリティカルパス「私のカルテ」の運用

※熊本県下で稼働

※導入対象

☆術後経過観察

肺がん

大腸がん

乳がん

肝臓がん

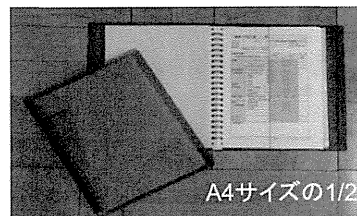
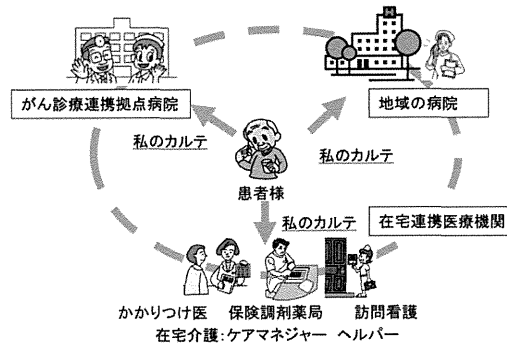
胃がん

前立腺がん

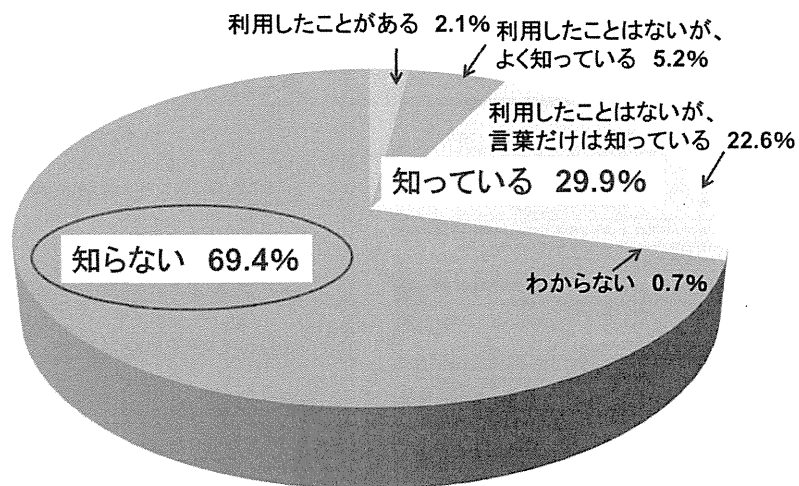
婦人科がん

☆経口抗がん剤内服: 肺がん

☆ホルモン療法: 乳がん、
前立腺がん

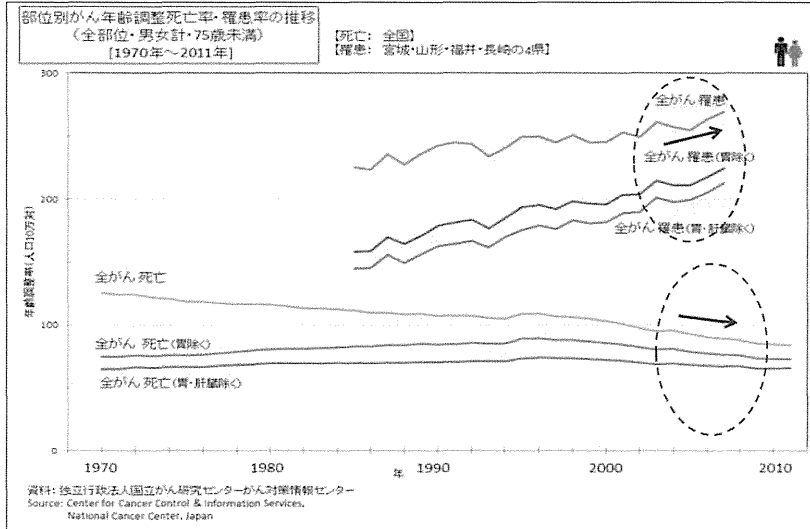


がん相談支援センターの認知・利用度



H21年9月 がん対策に関する世論調査 内閣府大臣官房政府広報室

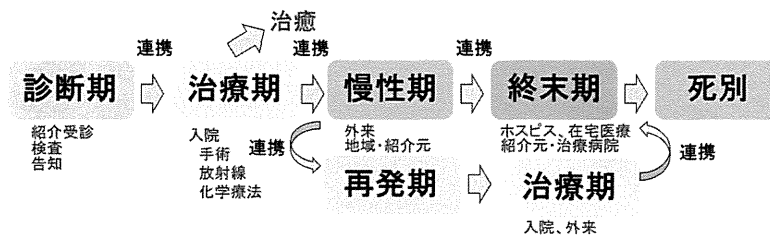
「がん」とともに生きる人々の増加



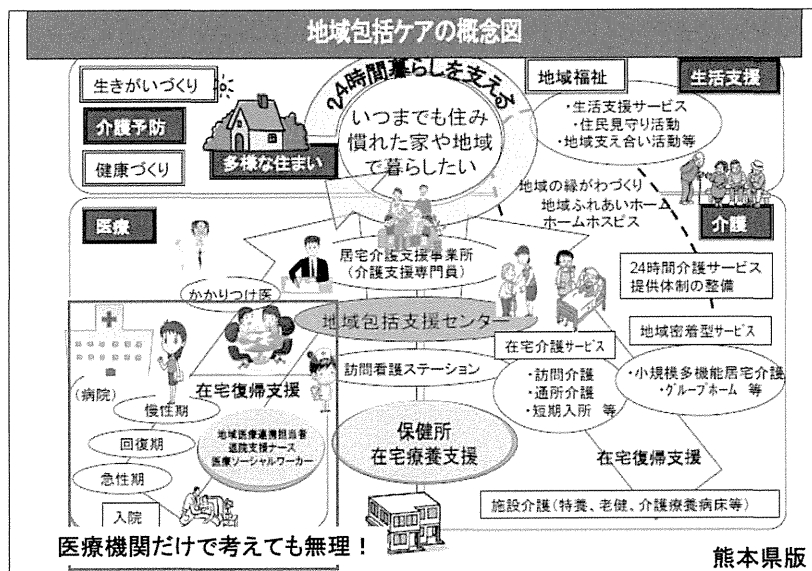
「がん」も慢性疾患としてとらえられる時代

治療の経過とがん相談支援

- ・がん診療連携拠点病院のみで治療や経過観察、ホスピス等治療経過への対応は難しい(地域医療連携)
 - ・患者が望む療養の場(症状によって変化する)
- ↓
- ・各治療段階でがん相談支援が必要(継続して情報提供)

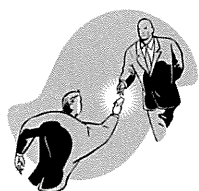


がん患者・ご家族の生活の場：地域包括ケアシステム



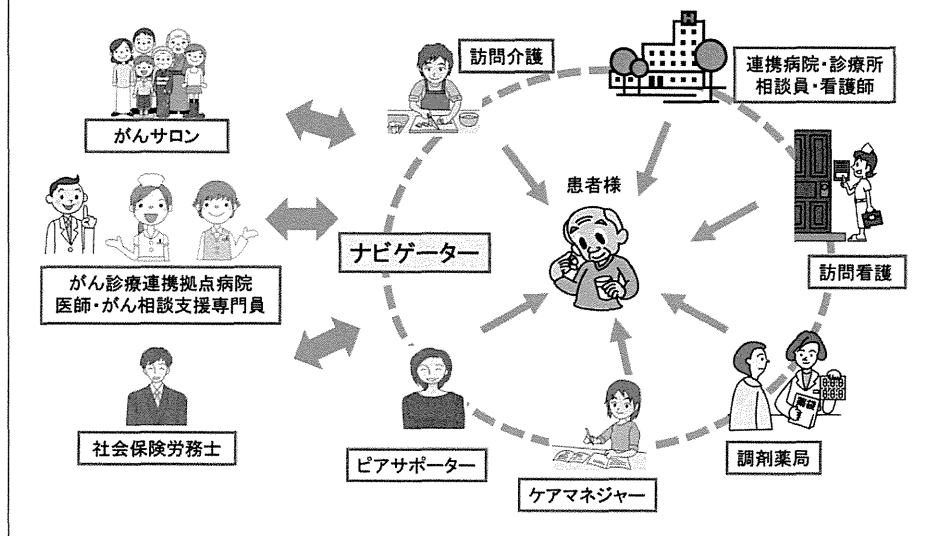
課題：地域でがん相談支援体制の構築

がん患者とそのご家族が切れ目のない医療・ケアを受けられる連携体制の構築と、各治療経過において生じる諸問題・課題に対するがん相談支援体制がどの治療段階においてもどの地域においても並行して行われることが重要



熊本県版がんナビゲーターとがん専門相談員の協力体制

ナビゲーター：患者・家族からの相談に傾聴し、それぞれの専門性を活かしながら適切な情報を提供する。相談の内容によりがん診療連携拠点病院の医師や相談員、社会保険労務士、がんサロン等につなぐ役割を担う



がん相談支援センターの役割

☆病院内・外を問わず、患者・家族あるいは地域の方々
(医療・福祉機関・一般の方)からがん医療に関わる相談を、
電話・面談にて受ける

☆その人らしい生活の構築と治療選択ができるように支援する



がん相談支援の目的は一緒
がんナビゲーターの役割でもある

がんナビゲーターの業務

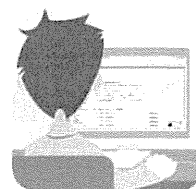
- ①地域におけるがん診療情報や医療サービス情報を収集する
- ②がん患者・家族などの求めに応じ、がん診療情報や
医療サービス情報を適切に提供する
- ③地域連携クリティカルパスの運用を支援する
- ④臨床試験・治験に関する情報を適切に提供する
- ⑤医療介入またはこれに相当する可能性のある行為は行わない

日本癌治療学会

がんナビゲーターに必要な知識・スキル

○E-ラーニングで学ぶ

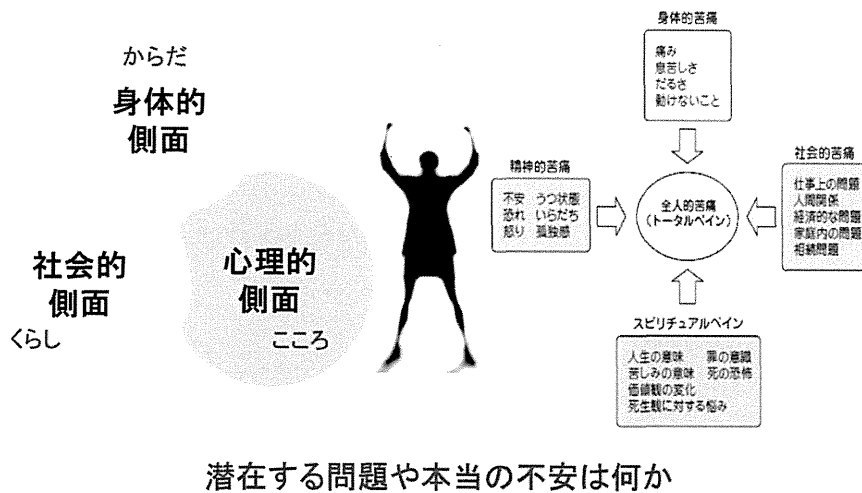
○がん診療拠点病院での臨床実習で学ぶ



がんナビゲーターに求められる知識・スキル

- ◆ 話しやすい環境を作り、思いをしっかり受け止める
- ◆ 対象者を理解する
 - ・患者は身体(からだ)、精神(こころ)、社会(くらし)の側面があり、病気になったことで様々な困難を抱える
 - ・家族は「第2の患者」である
- ◆ 本人の了解なしに他言はしない(守秘義務)
- ◆ 自分の出来ること、できないことを知り、正確な情報が得られる専門スタッフと連携する
- ◆ 相談者と医療者の関係作りを支援する

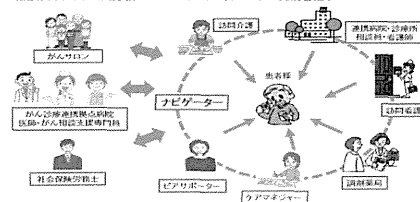
対象者の理解



まとめ

- 第2次がん対策推進計画の目標に「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」が付加された
- そのためには地域包括ケアシステムを視野に入れて、地域でがん相談が受けられる支援体制の構築が必要である
- 今後地域でがん相談を受ける役割として、
がんナビゲーターの活躍が期待されている

熊本県版がんナビゲーターとがん専門相談員の協力体制
ナビゲーター：患者・家族からの相談に精励し、それぞれの専門性を活かしながら適切な情報を提供する。相談の内容によりがん診療連携拠点病院の医師や相談員、社会保険労務士、がんサロン等につなぐ役割を担う



『がん医療ネットワークナビゲーター』
教育研修セミナー in 熊本

デモンストレーション

監修 熊本県がん専門相談員ワーキンググループ

デモンストレーションの狙い

★相談を受ける際の基本的な心構えを理解する。

(Bセミナーでは、より実践的なコミュニケーションスキルの取得が可能です！)

★熊本県で育成するがん医療ネットワークナビゲーターの役割を理解すると共に、活躍する場面をイメージできる。

61

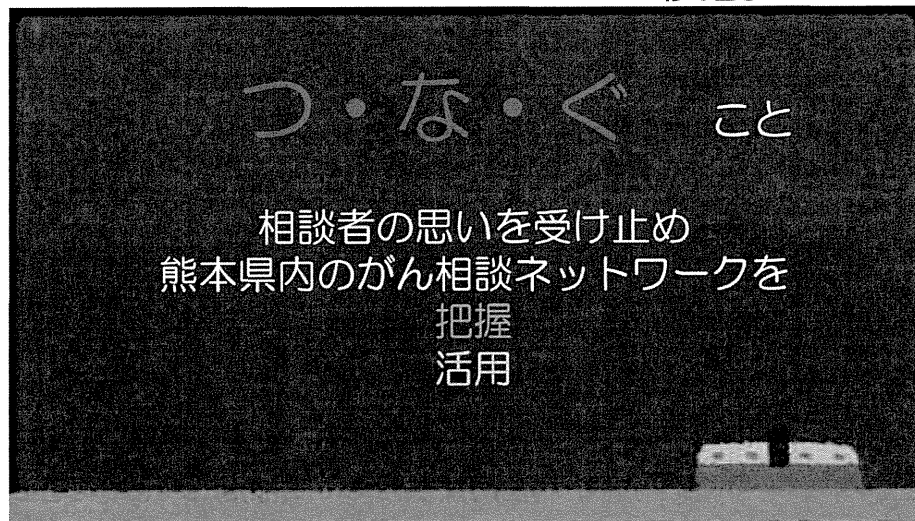
がん医療ネットワークナビゲーターに 求められる心構え

- ◆ 思いをしっかり受け止める
- ◆ 他言はしない
- ◆ 出来ることを知り、
専門スタッフと連携する
- ◆ 相談者と医療者の関係作りを支援する

熊本県で育成する

がん医療ネットワークナビゲーター

の役割とは



62

シーン1（保険調剤薬局にて）

水前寺のり子さんは半年前に肺がんの手術を受けました。

その後、補助化学療法として、経口抗がん剤を内服中。

最近気がかりなことがあり、かかりつけの保険調剤薬局にがん医療ネットワークナビゲーターの資格を持った薬剤師がいることを知り、思い切って相談してみることにしました。

シーン1の振り返り

がん医療ネットワークナビゲーターの役割

- ・守秘義務
- ・相談できる場所の紹介（がんサロン）

つ・な・ぐ



保険調剤薬局の薬剤師